

さいの神

実行委員長 小熊由紀夫

姥ヶ山の伝統行事さいの神を今回もコロナ禍の中ですがやろうという事になりました。

まず、この事業は稲わらの準備から始まり、そのわらを使つてのトバ作り、そしてスルメを吊るす細竹、葦集め、孟宗竹も用途に合わせた長さで切り、コロナウィルス対策を取りながらさいの神準備の作業を行いました。

年が明けて一月十五日日本番当日は、あいにくの雨模様でしたが、小雨で風も弱かったので沢山の人が集まって、スルメもすぐに売り切れて盛況でした。このさいの神は大勢の人達の協力と理解で成り立っています。本来ならその人たちと慰労会で会話などとして労いたい、この状態では出来ないところに歯がゆさが残ります。

最後にこの行事に協力して頂いた多くの有志の方々、また稲わらをご提供して頂いた農家の方、皆様に心から感謝申し上げます。有難うございました。



1月15日(日) 午後3時より点火 参加者：350名 当日は見事な炎と煙が上がり、見ごたえもありました。



さいの神
準備作業風景



稲わらを使つてのトバ作り



組み立て



わら上げ



スルメ用の細竹の切り出し作業



よし
葦を刈って小分けに



もう そう だけ
孟宗竹の伐採、切り出し作業



スルメの竿付け作業

～ 準備作業から取り組んでいただいた皆様、誠にありがとうございました ～



「わら：小熊由紀夫 27名」



「細竹：高橋隆夫 13名」



よし
「葦：阿部博一 14名」



もう そう だけ
「孟宗竹：阿部旬 16名」